

陸生ホタル研

Kakutide

No.144

2025 年 7 月 10 日

陸生ホタル生態研究会事務局

電話：F A X 042-663-5130

Em:rikuseihotaru.07@jasmine.ocn.ne.jp

フィールドからの証言 その 35

東京都多摩丘陵の西端 湯殿川に見る

歴史・環境問題

小俣軍平

1：図



1 はじめに

東京都と神奈川県との境に位置する多摩丘陵の西端に、関東平野を横断する高速道路の圏央道があります。今回取り上げる湯殿川は、ここを源流域とする全長 8km 程の小さな河川で、八王子市を流れる南浅川の支流の一つです。源流点は、1 図の左側赤丸の所で、拓殖大学八王子キャンパスの用地内であるため、今回は立ち入り許可がいただけず、流路の自然環境をお見せすることが出来ませんが、落葉広葉樹林におおわれた流域には、八王子

市ばかりでなく、東京都全体のゲンジボタル保護・保全・復活問題にかかわる、東日本型のゲンジボタルが残って居るものと思います。それではまず、この川の自然環境の現状をざっと見ていただきましょう。

2：図 拓殖大学八王子キャンパスの入口（左手奥に源流点からの湯殿川流出口があります）



3：図 2：図から 0.5 kmの拓殖大学用地のはずれの状況、赤丸の所



4：図 キャンパス入口から1 km程の流路。ここから川幅が広がり、流れに沿って川底に草むらが生まれます。



5：図 4：図から0.5 km下流の状況。この川にはこうした橋梁がたくさん見られます。



6：図 5：図から 0.5 km程下った丘陵部には、マンションが建ち並んでいます。現在も周辺の大規模な開発が続いています。



7：図 中流域の左手には、縄文時代の住居跡も残る雑木林が見られます。



8：図 このあたりも 1960年代に、縄文・弥生・鎌倉時代の住居跡が発掘されています。ということは川床の位置が変わっていないということです。



9:図 下流域は、いくつかの支流が加わって水量も増え、護岸はコンクリートでしっかりと固められています。奥に市立由井中学の校舎が見えます。



10:図 端末から 8 k m程の所の風景。



11:図 浅川との合流点。



以上、湯殿川の上流から下流にかけて、現在の風景をみていただきました。この川岸沿いには、縄文・弥生時代の土器や石器の出土する場所が、点々と存在しています。

また古いものとしては、流域の小比企町で、ナウマンゾウの歯の化石が発見されています。ナウマンゾウが生息していたのは30万年も昔のことですから、これがそのまま化石として見つかるということは、この川ではその昔から、洪水災害は起きていなかったということではないでしょうか。

湯殿川の中流域の北岸の丘陵地には、縄文・弥生時代の遺跡が複数存在します。そのうちのひとつが櫛田遺跡公園です。遺跡発掘・調査の跡が「遺跡公園として」保存されているのは、多摩丘陵でここだけです。

12：図 櫛田遺跡公園の入口



13：図 縄文土器のモニュメント



14：図 竪穴住居跡 この公園には4か所保全されています。



公園の樹木はすべて縄文時代の種が選ばれています。これも素晴らしいです。



私は、1963年から1992年迄八王子市立の3つの小学校で勤務する傍ら、都下の自然環境保護運動にも参加してきました、当時市内にはこうした市民団体が20あり、私の所属していた会は 八王子自然友の会でした。

開発が進む市内では当時、市内のあちこちで、縄文・弥生時代の遺跡の調査が行われ、調査の様子は一般にも公開され、希望すれば、アマチュアでも遺跡調査の作業に参加でき

て、調査方法の手ほどきを受けることもできたのです。そのため、私は、高学年を担当していた場合は、子ども達と共に近くの遺跡調査に参加させていただきました。梶田遺跡の調査にも参加しました。地面を丁寧に削り取って調査をすすめていくと、小学生でも大人顔負けの発見をすることがありました。

例えば、石器の石包丁ですが、なんと左利き用の石包丁を子どもが見つけたことがありました。また、縄文土器の縁の破片を採集していて、これを作るときに縄文人が左手の人差し指に粘土を付けて右手で形を作っていた際にできた、指紋が見つかったことがありました。

・・・話が横道にそれてしまいましたが、「調べることの面白さには、大人も子供も、大学教授も小学生も差はありませんよ」と言われていた、今は亡き小西正泰 先生のお言葉が懐かしく思い出されます。

みつけたよ！！

夜も活躍するオバボタルの雄成虫

小学4年生の男の子の快挙

2025年6月25日、この月報でもたびたび取り上げてきた八王子市の池の沢緑地で、東京都教育委員会の主催する、幼児から小学生を対象としたゲンジボタルの羽化状況の観察会が開かれました。夕方6時半から始まった観察がひと通り終了した後で、参加者が広場に集まり、まとめの会が開かれていた時のことです。

私の隣に座っていた小学生の男の子が、「これは何という昆虫ですか？」と、体長6～7mmの小さな昆虫を見せてくれました。暗がりだったこともあり、私がお預かりして持ち帰り、正確に名前を調べてからお知らせすることにしました。お預かりした時は、夏の夜に人工照明に集まる昆虫の仲間の一つだろうと思いました。

翌日の朝、容器を開けてみて驚きました。なんとオバボタルの雄成虫だったのです。



私達はこれまでに27年間陸生ホタルの生態を調べてきましたが、オバボタルの様に夜間発光しないホタルの成虫については、おそらく落ち葉の下に潜って静止しているのではないかと想像はしていたものの、夜間の採集実績が無く、まったく判かっていませんでした。ところがこの小学生は、ゲンジボタルの羽化の時期、しかも夜間に人工照明が灯り、大勢の人間が集まっている場所で、オバボタルの成虫を採集したということになります。

これにはびっくりしました。ゲンジボタルやヘイケボタルは、その生息地では、人間が歩いても支障なく発光・飛翔します。しかし、人の集まっているような場所に、自ずから飛翔して来ることはありません。



伊藤君は都内の小学校の4年生で、この日はお母様と一緒に観察会に参加されていました。これまで毎年開催されてきたゲンジボタルの観察会で、おそらくこれまで誰も見たことが無い、夜間に行動するオバボタル成虫を発見しました。ゲンジボタルの様に発光飛翔するホタルの成虫は、誰でも容易に見つけられます。しかし、体長6mm余りと小さく、発光しない種のホタルの成虫の姿を、夜間に捉えることは至難の業です。「素晴らしい！」「やった～～！！」……です。小西正泰 先生がお元気でいられたら、何とおっしゃったでしょうね。
(小俣 記)

あとがき

毎朝テレビをつけると、「今日も厳しい暑さが続き、39℃越えの危険な状態です。外出は控えて、止む無く出かけるときは、安全対策をしっかりして下さい」と警告が発せられています。八王子市もこのニュースの度に危険状態の地域名に登場します。この暑さのせいで、野外での調査は全く出来ません。夜間の調査も、今年生まれのホタルの孵化成長の

進行は9月末ですので、それ迄は調査はできません。陸生ホタル研発足以来の異常事態です。

全国各地の会員の皆様、どうぞ、安全第一にお過ごしください。酷暑の生物に対する影響が各地で観察されています。ホタルに限らず、生物全体の生態について、気になる状況をみましたら、どうぞ事務局までご一報ください。お願いいたします。

寄付・カンパの報告

静岡県富士宮市の小池 猛 様から10000円のカンパを頂きました。陸生ホタル研のHPの維持費として、謹んで使わせていただきます。本当にありがとうございました。